

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970101927		
法人名	社会福祉法人緑栄会		
事業所名	グループホームわかば		
所在地	甲府市古上条町163-1		
自己評価作成日	平成27年9月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-kouhyo-yamanashi.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成27年10月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

創設者が歯科医師でもあるため、「口腔ケア」にも取り組み、入居者が「食事を美味しく、楽しく、ゆつたりと味わえるよう」口腔機能を維持し、ひいては自立や生活の質の向上を図れるようにしている。看護師を配置し(常勤2名非常勤1名)、健康管理面において健康維持と異常の早期発見と対処に努めている。ご本人を尊重しつつ、家族のような親しみのある関係作りに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新興の一般住宅街の中に事業所がある。隣接地に往診をしてくれる母体の歯科医院がある。また併設の「わかばデイサービスセンター」とは防災時の協力関係が出来ていて心強い。管理者は年一度の外部評価を事業所の運営の振り返る機会として、ケアの質の向上や、評価からアドバイスを受けて、看取りを行うきっかけにもなっている。看取りを行う前後には職員からアンケートを取り、職員の理解を得る取組もしている。アンケートでは「看取りを行って良かった」との職員の感想が出ている。利用者の部屋に3人の利用者が集まって話をしていたり、散歩に出かける時の声の掛け合い、また、おしゃれの洋服を着て楽しんでいる様子から、利用者は居心地良く、楽しく過ごしているようすが伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホームわかば

[セル内の改行は、(Altキー)+(E

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(わかば)	ユニット名(さくら)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホール内に基本理念を掲示している。また、新人オリエンテーションの時、徹底的に基本理念の大切さを学んでいる。	ホール内に基本理念を掲示している。また、新人オリエンテーションの時、徹底的に基本理念の大切さを学んでいる。	ホール内に基本理念を掲示している。職員には理念を意識した支援に繋げるようにと、折に触れて話をしている。今後解りやすい理念に作り変える事を検討している。職員採用時は理念の大切さを伝えて、理解をして貰っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域との交流は日常的ではないが保育園児や小学生などの慰問を行っている。また、傾聴ボランティアの受け入れもっており、地域住民とコミュニケーションする機会を提供している。	地域との交流は日常的ではないが保育園児や小学生などの慰問を行っている。また、傾聴ボランティアの受け入れもしており、地域住民とコミュニケーションする機会を提供している。	自治会に入り、回覧板がまわってくる。地域の保育園児や小学生の訪問を受け入れている。近所の人達が犬の散歩時に事業所に立ち寄り入居者と触れ合っている。時には品物の差し入れがあり、日常的な交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近所の衣料品店やスーパーに買物に行き理解を呼びかけている。	近所の衣料品店やスーパーに買物に行き理解を呼びかけている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2~3ヶ月毎に開催しホームの状況報告を行っている。	2~3ヶ月毎に開催しホームの状況報告を行っている。	定期的に運営推進会議を開催して、事業所の運営内容や入居者の生活状況を報告している。民生委員や包括支援センターの出席者から地域の行事・高齢者の状況等の情報を得ている。家族の出席は少ない。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の際に地域包括が窓口となり、情報交換を行っている。	運営推進会議の際に地域包括が窓口となり、情報交換を行っている。	市担当者とは入居者の情報や書類手続き等の協力関係を持っている。また地域包括支援センターから情報を得たり、相談したり等、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。日中は玄関の施錠は行っていない。居室の鍵は設置していない。	身体拘束は行っていない。日中は玄関の施錠は行っていない。居室の鍵は設置していない。	玄関の施錠はしていない。身体拘束はしていないが、スピーチロックにつながる言葉かけの理解は、職員間で注意し合う場面もあるが一部の場面での不適切な言葉遣いが改善するまでには至っていない。	スピーチロックが身体拘束という理解が出来るように職員全体で学習会を実施して、言葉の置き換えの大切さを職員間で学ぶ事を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	民生委員や地域包括支援センターと連絡をとり防止に努めている	民生委員や地域包括支援センターと連絡をとり防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、地域包括等に教えていただきながら、学んでいるところである。	現在、地域包括等に教えていただきながら、学んでいるところである。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談の段階からご本人やご家族の意向や要望を取り入れて対応している	入居相談の段階からご本人やご家族の意向や要望を取り入れて対応している		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(わかば)	ユニット名(さくら)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご本人・ご家族の要望をその都度取り入れ職員全員に統一したサービスを行うように努めている。	ご本人・ご家族の要望をその都度取り入れ職員全員に統一したサービスを行うように努めている。	「家族からの看取りをして欲しい」との要望があり、ベッドや酸素ボンベ等の物品を揃えて、看取りが出来る態勢を整えた。また家族からの要望等で職員が受け取った要望は主任から管理者に伝え、出来る事は検討して実践につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定期ミーティングを行い意見交換を行い業務に反映させている	毎月定期ミーティングを行い意見交換を行い業務に反映させている	月一回のミーティングで意見交換を行っている。職員の要望でプライバシーを考慮して入居者の居室の入り口にカーテンを取り付けた。カラオケ機材の要望は検討中になっている。勤務体制の要望も書類を整えて、出来るだけ反映するよう心掛けていく。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に1～2回の定期面接を実施している。勤務態度に応じての正規職員への登用制度を行っている	年に1～2回の定期面接を実施している。勤務態度に応じての正規職員への登用制度を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設外へは可能な限り研修や講習会へ参加させている	施設外へは可能な限り研修や講習会へ参加させている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター主催の学習会へ参加している。	地域包括支援センター主催の学習会へ参加している。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご自宅や施設を訪問し要望を聞いている	入居前にご自宅や施設を訪問し要望を聞いている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご自宅や施設を訪問し要望を聞いている	入居前にご自宅や施設を訪問し要望を聞いている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	訪問調査を行い、入居後の状態をアセスメントしている	訪問調査を行い、入居後の状態をアセスメントしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	なるべく家族の関係が薄くならないように最低でも月に一度は面会を依頼し実施している	なるべく家族の関係が薄くならないように最低でも月に一度は面会を依頼し実施している		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(わかば)	ユニット名(さくら)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族によっては遠方に住んでいるご家族もいるのでご本人の気持ちを聞きながら手紙を代筆している	ご家族によっては遠方に住んでいるご家族もいるのでご本人の気持ちを聞きながら手紙を代筆している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	基本的に面会は自由に行っていたい	基本的に面会は自由に行っていたい	家族が面会に来た時は再度の面会をお願いしている。「入居者が知人のお悔みにいきたい」との要望に職員が同行したり、帰宅願望がある利用者には自宅付近へドライブする等して、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日利用者様同士が関われるようにラジオ体操やレクリエーション等で交流を図っている	毎日利用者様同士が関われるようにラジオ体操やレクリエーション等で交流を図っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて電話での相談や助言を行っている	必要に応じて電話での相談や助言を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人に担当をつけてご本人の要望を聞いている。ご本人からの要望や訴えが少ないもしくは困難な場合は、ご家族や関係者からの情報を聴取している	一人一人に担当をつけてご本人の要望を聞いている。ご本人からの要望や訴えが少ないもしくは困難な場合は、ご家族や関係者からの情報を聴取している	職員は二名の受け持ち担当になって、一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。また意思疎通が困難な利用者には家族からの情報や過去の生活状況から把握して、日々の行動や表情から理解して支援するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前にご自宅や施設を訪問し生活状況や趣味・嗜好を聞いてサービスに活かしている	入居前にご自宅や施設を訪問し生活状況や趣味・嗜好を聞いてサービスに活かしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前に状況を調査に行き、アセスメントを行っている。家事や掃除、洗濯たたみなど日常生活動作の中から現状をみて行く様に努めている	入居前に状況を調査に行き、アセスメントを行っている。家事や掃除、洗濯たたみなど日常生活動作の中から現状をみて行く様に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の要望を聞き、3ヶ月毎にモニタリング・カンファレンスを実施し介護計画の修正を行っている	ご本人やご家族の要望を聞き、3ヶ月毎にモニタリング・カンファレンスを実施し介護計画の修正を行っている	入居時には家族・利用者から要望を聞き、アセスメントを行い、ケアマネジャーが仮プランを作成している。2週間位で現状を把握して、カンファレンスを行い、プランを決定している。3か月毎にモニタリング・見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録への記載と共に引き継ぎノートを活用し情報の共有を行い見直しに役立っている	個別記録への記載と共に引き継ぎノートを活用し情報の共有を行い見直しに役立っている		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(わかば)	ユニット名(さくら)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望に沿ってその都度サービスを柔軟に対応している。ご家族が病院受診が困難な方については、往診の導入。	ご本人やご家族の要望に沿ってその都度サービスを柔軟に対応している。ご家族が病院受診が困難な方については、往診の導入。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の商店や医院に協力を得ながらご本人が快適に生活し、今出来ることは行っていただいている	近所の商店や医院に協力を得ながらご本人が快適に生活し、今出来ることは行っていただいている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診日の一覧表にてご家族へ協力を得て受診を進めている。看護師が主治医との連絡を行いながら健康管理に努めている。	定期受診日の一覧表にてご家族へ協力を得て受診を進めている。看護師が主治医との連絡を行いながら健康管理に努めている。	かかりつけ医には基本的に家族が同行受診し、専門医も含めて、不可能な場合は職員が代行している。家族・利用者が希望するかかりつけ医となっており、協力医、歯科等が往診に来てくれる方もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤の看護師を2名、非常勤を1名配置し、情報ノートなどを活用しながら連携をとっている。体調不良の利用者が出た場合は24時間の連絡体制をとっている。また、希望される方には看取りもおこなっている。	常勤の看護師を2名、非常勤を1名配置し、情報ノートなどを活用しながら連携をとっている。体調不良の利用者が出た場合は24時間の連絡体制をとっている。また、希望される方には看取りもおこなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	施設長が入院時の病院のスタッフと連絡を取り支援している	施設長が入院時の病院のスタッフと連絡を取り支援している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	各部署の責任者と勉強するなど準備し始めている	各部署の責任者と勉強するなど準備し始めている	家族・利用者に事業所の終末期の対応を説明して理解を得ている。今迄3名の看取りを行なっている。職員は最初は不安があったが、看取りを行った後のアンケートには「看取りをしてよかった」との感想が多く聞かれ次につなげることが出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護職員が中心となって、初期対応の指導をおこなっている。緊急時対応マニュアルがある。	看護職員が中心となって、初期対応の指導をおこなっている。緊急時対応マニュアルがある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を実施している。また、火災や災害時は地元消防団へ協力体制をとっている	年に2回防災訓練を実施している。また、火災や災害時は地元消防団へ協力体制をとっている	火災時の夜間を想定して9月に避難訓練を実施した。その際は消防署への連絡、近所への了承を得て実施している。通報機器の取り扱い方等は夜勤回数が多い職員が行った。緊急時は併設のデイサービスとの協力が出来る体制が整っている。災害時の備品等は整えてある。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(わかば)	ユニット名(さくら)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	学習会や指導は実施しているが、まだ対応については不十分な職員もいる	学習会や指導は実施しているが、まだ対応については不十分な職員もいる	居室を開けている時のプライバシーの配慮で、入り口にレースカーテンを取り付けた。時として日頃の言葉かけの不適切な場面があり、勉強会を行う予定である。名前を呼ぶ時は基本的には苗字で呼んでいるが、利用者にあった呼び名での支援も心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各利用者様に担当職員を決めて意見や要望を聴取するようにしている	各利用者様に担当職員を決めて意見や要望を聴取するようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	状態に応じて対応している	状態に応じて対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望により美容や女性は化粧を行っている	希望により美容や女性は化粧を行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ADLが自立に近い方は配膳や下膳を行っている。誕生日会の際は、利用者様の好きな食事を提供している	ADLが自立に近い方は配膳や下膳を行っている。誕生日会の際は、利用者様の好きな食事を提供している	配食を利用している。配膳や下膳、お茶配り等、出来る利用者は行っている。時には利用者の希望で品数を多くして希望に沿うようにしている。弁当持参の職員と一緒に話をしながら和やかに食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者様の主治医の指示の基に提供している	各利用者様の主治医の指示の基に提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを実施。異常時は隣接してる創設者の歯科医院へ受診している	毎食後歯磨きを実施。異常時は隣接してる創設者の歯科医院へ受診している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録をつけ取り組んでいる	排泄記録をつけ取り組んでいる	排泄チェック表を利用し、排泄パターンを把握してトイレ誘導を実施している。同性介護を希望する利用者が多く、プライバシーを損ねない支援等、利用者の希望に添った対応をしている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(わかば)	ユニット名(さくら)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動を行ったり、水分量の調整などを行っている	運動を行ったり、水分量の調整などを行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者様の要望やペースにて一人ずつ入浴していただいている。	利用者様の要望やペースにて一人ずつ入浴していただいている。	利用者は1週間に2回、午前中に入浴している。入浴時はチェック表を見て体調を確認し、利用者に声掛けをしている。一番風呂や熱い湯を好む利用者には希望に添って対応し、ゆっくり入浴できる時間を持っている。時々、併設のデイサービスの機械浴や大きな風呂も利用して楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の要望やペースにて一人ずつ休息していただいている。	利用者様の要望やペースにて一人ずつ休息していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の処方した薬剤の説明書を参考に不明な事は薬局の薬剤師へ相談している	主治医の処方した薬剤の説明書を参考に不明な事は薬局の薬剤師へ相談している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメント表や近況をスタッフ間で情報交換し取り入れ支援している	アセスメント表や近況をスタッフ間で情報交換し取り入れ支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所への散歩や買い物。季節ごとに外出を図っている	近所への散歩や買い物。季節ごとに外出を図っている	日常的に天気の良い日には職員が一人付き添い、近所に散歩に出かけている。行事外出として月一回スーパーへ行く、季節毎のお花見等がある。また、近くの飲食店や衣料品店へ利用者の希望に添って外出している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に利用者様がお金を持つことはしていない	基本的に利用者様がお金を持つことはしていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が介助し、ご家族・友人への電話を支援してる	職員が介助し、ご家族・友人への電話を支援してる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員が介助し、壁に季節感があじわえる様に支援してる	職員が介助し、壁に季節感があじわえる様に支援してる	リビングホールは広い。大きなテーブル3個を真ん中に置いて、様々な活動「うちわ作り等」ができる。フロアでは歩行訓練を行なっている。玄関やフロアの幾つかのソファは外出時に一息ついたたり、寛ぐ事が出来る。壁には季節感のある作品を掲示し、居心地良く過ごせるような環境になっている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(わかば)	ユニット名(さくら)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーにソファーを設置している	フロアーにソファーを設置している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく自宅の自室に近い環境で生活できるように身の回りの物を持ち込んでいただいている	なるべく自宅の自室に近い環境で生活できるように身の回りの物を持ち込んでいただいている	居室は洗面台が設置してあり、居室の畳コーナーにふとん、または、ベッドを使用している。入居時に自宅で使用していた物「たんす、座椅子、鏡、仏壇」等を持参して、身の周りに好みの物を置いたり、飾って、居心地良く過ごせるようになっている。中には居室が以前の荷物をいっぱい持ち込んで安心して暮らしている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室や廊下に手すりを設置。キッチンはIH対応。	各居室や廊下に手すりを設置。キッチンはIH対応。		